

◆〈地理〉選定の観点からみた内容の特色



観点		『中学社会 地理』の特色と具体例
選択、程度、分量		
●社会科の目標に照らして、適切な内容が取り上げられているか。	●学習指導要領の「社会科の目標、各分野の目標、内容、内容の取扱い」をふまえ、地理的分野に必要な社会科の基礎的・基本的な事項が明確におさえられている。典型的な教材への焦点化と学習内容の重点化が的確に図られ、特に、社会の変化や今日の課題が反映された事象を積極的に取り上げることで、生徒の「未来社会を切り拓くための資質・能力」を育むように配慮されている。 →p.10～13「地球儀から世界地図へ」「200近くの国々からなる世界」、p.156～159「自然災害に向き合う」「災害から身を守るために」	
	●生徒にとってわかりやすく、興味や関心を喚起する内容が選択されているか。	●生徒の日常生活や経験と関連の深い身近な話題・内容が多く取り上げられているほか、折込のページを中心に、興味・関心を喚起する写真資料が豊富に盛り込まれ、学が楽しさや意欲が高まるように配慮されている。また、巻頭には、小・中学校の社会科学学習の接続のための「地理の学習を始めるにあたって」、地図帳の使い方など小学校の学習を振り返る「地理にアプローチ」など、地理的分野の学び方を紹介するページが設けられている。 →巻頭1～2「地理の学習を始めるにあたって」、p.2～4「地理にアプローチ」ほか、第1編の内容(p.5～24)、(折込) p.127右～130「地図を活用しよう①～④」
	●生徒の学力向上に対して、どのように配慮されているか。	●全体のページ数や本文の記述量を充実させ、学習内容を詳しく丁寧に扱うことにより、基礎的・基本的な事項の確実な習得が図られるように配慮されている。本時ページに設けられた「確認／表現」「THINK!」のコーナーやコラム、そして最後に取り組む「学習のまとめと表現」、さらに学習を広げたり深めたりする特設ページ、というように、段階的な学習を通して学力の着実な向上が図られるように構成されている。また、本文中には、資料との関連がわかる資料番号や、前出・後出する関連箇所への参照ページも挿入し、さらに見開き右ページ下にも「関連ページ」を示す箇所を設けて、教科書内にある学習項目が関連する他の箇所や他分野との関連も示すなど、学習の支援となるような工夫が施されている。 →p.Ⅰ～Ⅱ「もくじ」、p.Ⅲ～Ⅳ「教科書の使い方」、全般
●全体や単元の分量が、適切に設定されているか。	●学校教育法施行規則が定める各分野の授業時数をふまえて編集されており、表現活動をはじめとするさまざまな活動のための時間も十分に確保しながら、充実した学習を進めることができるように、適切に配分されている。特に地理的分野では、年間授業時数をふまえ、世界と日本の地誌学習に重点を置くなど各単元の扱いに軽重をつけることにより、生徒がじっくり追究しながら充実した学習を展開できるように配慮されている。本時ページについては、授業の展開や学習の見通しがつかみやすい「1時間＝見開き2ページ」で構成されているほか、学習指導計画上でもゆとりのある時数が配当され、学校や地域の事情に応じて、特設ページの扱いなどにより弾力的な時数の運用ができるように設定されている。 →本編時数（第1編：9、第2編：36、第3編：58、計103／115）	
組織・配列		
●単元が学習指導要領に対応し、適切かつ系統的に構成されているか。	●単元構成は、学習指導要領の内容の区分や順序に準拠し、「編・章・(節)」の配列により、その対応がわかりやすく組織されている。特に、社会の変化や今日の課題が反映された事象が積極的に教材化されているとともに、そうした変化や課題に自ら対応する資質・能力を育成するという視点から、問題解決的な学習が基調とされている。さらに、「もくじ」で単元構成と学習内容の全体が一覧でき、学習の位置や見通しがつかみやすいように工夫されている。 →p.Ⅰ～Ⅱ「もくじ」	
●二学期制に対して配慮されているか。	●各分野の単元構成は、前期・後期の二学期にも配分しやすく配列されている。	
●教育基本法および道德教育との関連が、十分に図られているか。	●教育基本法第2条の第1～5号および学習指導要領第3章「特別の教科 道德」の第2に示された内容について、社会科の目標や学習内容と関わらせた指導を効果的に行うことができるように構成されている。ボランティアを含めた公共的な活動や政策に取り組む人々の様子を取り上げ、活動の内容や人々の思いに触れる学習を通して、社会形成への参画意識を高めるように配慮されている。 →p.206～207「古都の産業と景観保全」、p.212～213「開発と環境保全の歩み」、p.286～287「調査研究の発表と共有」など	
●小・中の接続や生徒の発達段階との関連に関して、どのように配慮されているか。	●教育出版『小学社会 6』のキャラクターが中学生に成長した姿で紙面に登場し、共に学び合う意識が連続するように工夫されている。文体は「です・ます」調で、学習範囲には小5～6の配当漢字にもふりがなを付け、平易な記述となっている。特に、「地理にアプローチ」には、小学校で学習した地図のきまりや地図帳の使い方、グラフの種類などを振り返る活動を位置付けているほか、第1編、第3編・第1章に、ワークシートのように直接書き込む作業活動も取り入れるなどの工夫が図られ、発達段階に応じて無理なく学習することができる内容である。 →p.Ⅲ「キャラクター」、p.2～4「地理にアプローチ・地図やグラフを使いこなそう」、p.7「地球儀をながめて」など	
●カリキュラム・マネジメントの視点や、歴史的分野・公民的分野との分野間の関連について、どのように配慮されているか。	●全体として、分野ならではの「見方・考え方」を明確にした一貫した編集となっているため、他の分野や教科との横断的・連携的なカリキュラムの立案がしやすい構成となっている。特に地理的分野では、見開き右ページ下に、「関連マーク」を付して歴史的分野・公民的分野との連携を図る工夫がなされている。また、地域の歴史に関する記述や資料が多く取り上げられ、世界や日本の各地の特色について歴史的な歩みや背景と関わらせてとらえられるように構成されるなど、歴史的分野との関連が図られた構成となっている。さらに、第3編・第1章「地域調査の方法を学ぼう」と第4章「地域のあり方」には、発表会に地域の方々を招いて意見を提案しようとするなど、地域社会への参画意識を高める学習が設定され、公民的分野の学習への橋渡しが図られるように構成されている。 →p.78～79「ヨーロッパがアフリカに残したものは」、p.126～127「国境を越えて移動する人々」、p.190～191「地方中枢都市の発達」、p.204～205「歴史に育まれた地域」、p.206～207「京都の街並みと伝統文化」、p.142～143「調査の結果をまとめる」、p.286～287「調査結果を地域に伝えよう」など	

観点	『中学社会 地理』の特色と具体例
表記・表現、資料	
●記述内容が、正確・公正中立で一貫しているか。	●記述内容が正確・公正中立であることはもとより、中学生の思考や論理展開に整合しており明快である。学習の導入から、課題の設定と追究、ま とめに至る構成と記述が一貫しており、学習事項の確実な定着を図ることができる。 →p.44～61など全般
●記述の読みやすさに配慮されているか。	●地名・人名などの固有な詞や社会科特有の用語などには、見開きごとにふりがなを付けるとともに、小学校との接続をふまえ、学習範囲には小5～6の学年別配当漢字にもふりがなを付けることで、読みのつまずきが軽減するように配慮されている。また、主要な文字には教育的配慮を施した書体を用いているほか、文章は平易な表記・表現とし、側注や巻末には用語解説も掲載するなど、読解に負担がないように配慮されている。 →全般
●資料が正確で、効果的に提示されているか。	●社会科学学習に不可欠な写真・イラスト・地図・グラフ・図解などの資料が豊富に掲載され、出典と併せて視覚的にとらえやすく配置されている。本時ページの各資料には、指示しやすいように通し番号を付けるとともに、本文中にも資料との関連がわかるように資料番号が挿入されている。また、巻頭や折込・扉ページを有効に活用したレイアウトにより、資料性と学習効果が高まるように構成されている。特に、両開きの折込ページに、ダイナミックな衛星画像や伊能忠敬の日本地図が掲載され、地図への興味・関心と資料活用能力を高めるように工夫されている。 p.54～55など全般、p.128～129「宇宙からとらえた日本列島」など
●文字や色覚に関して、判読しやすいように配慮されているか。	●視力や色覚に関しては個々の特性があることに留意し、すべての生徒に見やすいカラーユニバーサルデザインに基づく紙面づくりがなされ、第三者機関CUDOの認証も受けている。文字はユニバーサルデザインフォントによる黒文字を基本とし、白抜き文字や色文字は十分な大きさを確保しているほか、図版資料は、配色とともに形や模様、引き出しなどの表示も工夫することにより、判読しやすいように配慮されている。 →p.2～4など全般
学習活動	
●社会科において重視される、資質・能力の育成への支援について、どのように取り入れられているか。	●【知識・技能】を育成する学習活動への支援としては、本時見開き右ページの最後に、学習したことを整理しながらまとめる活動として「確認」のコーナーが設けられ、学習事項の確実な定着が図られるように構成されている。また、本文内に適宜設けられた「地理の技」のコーナーでは、個人やグループでの活動を通じて、地理の学習で身に付けたい技能や表現力を養えるよう配慮されている。この「地理の技」のコーナーは、小学校社会科の振り返りにあたる学習から中学校社会科地理的分野で身に付けておくことが適切な「地理的技能」の習得まで、幅広い学習内容の定着に寄与するものとなっている。 ●【思考・判断・表現】を育成する学習活動への支援としては、本時見開き右ページの最後に、「確認」を受けて学習したことを基に表現する活動として「表現」のコーナーが設けられ、学習事項の定着と活用が図られるように構成されている。また、学習の流れに即して「THINK!」や「Q」のコーナーが適宜設けられ、(地図・グラフ・絵・図解などの) 資料を読み取って考察する学習活動が重視されている。特に地理的分野では、世界地誌・日本地誌の各地域の学習の随所に、特設ページが設けられており、さまざまな話題を取り扱い、考察力が高められるよう配慮されている。 ●【主体的に学習に取り組む態度】を育成する学習活動への支援としては、地理的分野の最後のまとめの学習として、第3編・第4章「地域のあり方」が位置付けられている。ここでは、それまで学習してきた内容を振り返り、生徒たちが自分が暮らす地域の課題を選定し、その課題について調査を行い、解決方法を見い出したり、地域に向けて提案したりする学習を取り入れている。地域の課題が日本全体に結びついていたり、世界や日本で起きていることが地域の課題と結びついていたりすることに生徒自身が気づき、地域や社会を持続可能なものにしていこうとするように配慮されている。 →【知識・技能】p.37「確認」、p.27（地理の技）「雨温図を読み取るう」など各所 【思考・判断・表現】p.37「表現」、p.39「THINK!」、p.29資料4「Q」など各所 【主体的に学習に取り組む態度】p.278～287「地域のあり方」
●生徒が自ら積極的に「見方・考え方」をはたらかせて、主体的・対話的で深い学びに資する学習および指導ができるようにどのよう配慮されているか。	●「見方・考え方」の視点や方法については、巻頭「地理の学習を始めるにあたって」の中で「地理的な見方・考え方」のコーナーを設けて、これから始まる本時ページなどの学習に際して「地理的な見方・考え方」に留意し、編・章の扉ページ下部にも「見方・考え方をはたらかそう」を設けて学習を深めていけるように配慮している。例えば、本時ページの学習の導入部分のキャラクターの吹き出しや、「THINK!」のコーナーの問いなどを通して、資料の読み取りに際してはたらかせるべき視点や考え方の示唆を丁寧に示すように工夫している。 ●授業の導入の場面では、生徒の興味・関心が高まるような、写真・図版などの資料をわかりやすく提示することでスムーズに授業に入っていけるように工夫されている。加えて、親しみやすい中学生や教師のキャラクターが登場し、気づきや問い、学習の手がかりなどが示されており、学習者の視点を取り入れ、共感しながら学びに取り組めるように工夫されている。 ●本時ページのタイトルには、学習内容を象徴する主題と学習事項を表す副題をおき、併せて「学習課題」を明示することで、生徒が課題意識を明確にすることができるよう配慮している。「学習課題」から展開していく問題解決的な学習の流れを重視し、流れに沿って効果的な教材や資料を掲載している。「学習のまとめと表現」でも「学習課題」を本時の学習を振り返る助けとして再掲している。 ●授業の初めに位置付けた「学習課題」を受けて、資料の読み解きのために随時設けられている「THINK!」を経て、1時間の学習の最後には「確認／表現」のコーナーの「問い」に取り組み、生徒が自ら学び、自ら考える学習が展開できるように配慮されている。この「確認／表現」のコーナーでは、学習したことをもとに「調べよう」、「まとめよう」などの課題が多く設定され、知識・理解や表現活動を行うことで1時間の学習を振り返ることができ、加えて、自分の意見が他者との交流を経てさらに深まっていくように配慮されている。 ●特に、地理的分野では、日本のさまざまな地域を扱う学習（第3編）の冒頭に設けられた、地域調査の方法を学ぶ学習において、テーマを決めてまとめたレポートをクラスの中で話し合ったり、意見交換を行ったりするなどの対話的学習の場面、グループで野外を歩きながら調査テーマを決めたり、班ごとに調査結果を発表し合ったりする場面を設けている。これらの場面が設定されることによって、教え合いや学び合いによる協働学習をもとに多角的に理解したり考えを深めたりして新たな知識の習得や、生徒の学習意欲を向上させる工夫が図られている。さらに、調べ学習では地域での調査活動に必要な学び方の手がかりが「地域調査の手引き」のコーナーに示されるように構成されている。 ●公民としての資質・能力を効果的に培うことを意図した、学習してきたことを根拠に自分なりの考えを表現し合う「選択・判断」や「考察・構想」の学習場面については、学習のねらいに即し、発達段階において無理がなく、実際に読み取りやすい例が数多く用意されている。特に、地理的分野においては、「地域のあり方」において最終的に課題解決の提案を行い、地域に向けて発信していく活動までを無理なく扱っている。 →巻頭2「地理的な見方・考え方」、p.Ⅲ「本文ページの見方・使い方」・「キャラクター」、p.95「THINK!」、p.132「地域調査の手引き①」ほか多数、p.134～135「調査活動の進め方」、p.140～143「現地での調査」・「調査の結果をまとめる」、p.284～287「調査結果を整理しよう」・「調査結果を地域に伝えよう」

観点『中学社会 地理』の特色と具体例

- 多面的・多角的な学習活動がスムーズに進行するように、どのような支援や工夫が取り入れられているか。
- 巻末には学習資料として「用語解説」や「世界の主な家畜」「世界の主な農作物」などが掲載され、生徒の地理的認識を高めるように配慮されている。
- 特に地図の活用に関しては、世界の州や日本の地方の精細な地勢図が適宜掲載され、学習を進めながら常に地図を活用できるように構成されているほか、中学校で身に付けたい世界や日本の略地図を描く活動や、地形図の見方と活用の仕方も詳しく扱われている。
- 世界と日本の地誌学習では、今日的な課題に迫るコラム的な特設ページ「持続可能な社会に向けて・クロスロード」が各見開き2ページで設けられ、興味・関心に応じて個々に探究する学習に取り組めるように構成されている。末尾には、特設ページの学習を通して、再度節全体の学習をとらえなおすような問い「TRY!」を設けて、学習がさらに深まるように工夫している。
 - p.288～293「用語解説」、巻末1～3「世界の主な家畜」・「主な鉱産物」・「世界の主な農産物」、p.46「アジア州の地勢と国々」ほか多数、p.139（地理の技）「新旧の地形図を比べよう」、p.126～127「国境を越えて移動する人々」、p.230～231「モノから見えてくる地域」など

- 見通し・振り返りがどのように意識され、どのように位置付けられているか。
- 章・節といった「内容のまとめり」ごとに、章・節の扉ページにはこれから学習する章・節全体の内容を大観できるように見取り図を配置して興味・関心を高めるとともに、併せて学習の見通し（世界地誌では「学習テーマ」、日本地誌では「学習の視点」）などを端的に表示し、その見通しに沿って学習が進行していくように配慮している。それに対応した「学習のまとめと表現」のページでは、学習で身に付けてきた用語（言葉）を振り返る「ワードチェック」を設けたうえで、地図や表を使って学習内容を確認したり、それを文章に表現したりし、最後に章・節を通した学習を振り返って意見を交換する学習を促すことで、より深い学びの実現と定着を図ることができるように配慮している。
 - p.44～45(節の見通し)「学習テーマ」、p.60～61「学習のまとめと表現」、p.76「ワードチェック」など

社会的課題

- 人権教育・福祉教育に関して、どのように配慮されているか。
- 日本国憲法や教育基本法に示される「人間尊重の精神」に基づき、差別や人権確立の歴史、人権をめぐる現状と課題についての考察を通して、すべての人の権利が守られる、差別のない「ともに生きる・ともに創る」社会の実現を追求する力が養われるように配慮されている。特に地理的分野では、世界のさまざまな民族・文化と社会との関わりを通して、多様な価値観や文化に対する理解と寛容を育むことができるように留意されている。
 - p.78～79「ヨーロッパがアフリカに残したものは」、p.126～127「国境を越えて移動する人々」、p.120～122「特色ある産業と国の成り立ち」・「白豪主義から多文化主義へ」など

- 環境教育など“持続可能な社会”の形成、SDGs（持続可能な開発目標）の視点に関して、どのように配慮されているか。
- 3分野を通じて、自然環境と自分たちとの関わりや、環境保全の重要性について多面的に考察し、理解を深める学習活動が重視されている。「地球規模で考え、足元から行動する」観点が強調され、廃棄物の減量やリサイクルをはじめとする循環型社会への転換を追求する教材が積極的に取り上げられ、環境保全のために自ら行動できる力が養われるように配慮されている。特に地理的分野では、「地理の学習を始めるにあたって」で「地球的課題とSDGs」を掲載し、世界地誌の導入において各州ごとに取り上げる地球的課題との関連を示すことで、今後の学習に対して興味・関心を高めるように工夫した。本時では温暖化や酸性雨などがもたらす環境破壊の現状とその対策について多角的に取り上げ、地球環境問題の解決には国際的な協力はもとより、自らの行動が不可欠であることの理解を深めるとともに、自然災害と防災、開発と環境保全に関する具体的な事例を豊富に取り上げ、自分たちの暮らしとの関わりについて関心と考察を深めるように留意されている。
 - 巻頭2「地球的課題とSDGs」、p.72～73「持続可能な社会づくり」、p.110～111「進展する開発と環境の変化」、p.180～181「工業の移り変わりと環境保全」、p.212～213「開発と環境保全の歩み」

- 国際理解教育に関して、どのように配慮されているか。
- 3分野を通じて、外国(人)との交流や地域の国際化、世界の多様な文化・宗教などの事例が豊富に取り上げられている。国籍や文化・習慣の違いを越えて相互に理解・尊重し合う必要性が強調され、国際社会に生きる日本人として「ともに生きる・ともに創る」社会の実現を追求する力が養われるように配慮されている。特に地理的分野では、世界各地の人々の労働の様子を取り上げ、地域の自然条件や社会条件と人々の暮らしとの関わりについて興味・関心を高めるように留意されている。
 - p.26～41「世界の人々の生活と環境」、p.84～85「アフリカの農業からみえる課題」、p.207（地理の窓）「世界文化遺産と観光都市」、p.243「増加する外国人」など

- 平和教育に関して、どのように配慮されているか。
- 3分野を通じて、先の世界大戦がもたらした惨禍や冷戦の影響、核兵器廃絶への取り組みをはじめ、現代の地域紛争や国際テロなどの問題について理解が深まるように配慮され、平和を希求することの意義が強調されている。特に地理的分野では、宗教の違いをめぐる対立や紛争の背景を通して、共存のあり方について考察が深まるように留意されている。
 - p.41（地理の窓）「宗教をめぐる共存と対立」、p.49（地理の窓）「分断された朝鮮半島」、p.75（地理の窓）「ウクライナ問題」など

- 情報化・リテラシーの進展に関して、どのように配慮されているか。
- 3分野を通じて、情報化の進展に伴う社会や生活の変化、情報の有効な活用について理解が深まるように配慮されている。特に地理的分野では、情報通信の発達と地域間の結びつきとの関わりや情報発信に関わる学習、情報格差の問題について取り上げられている。
 - p.57「インドのICT産業」、p.168～169「人・もの・情報により結びつく世界と日本」、p.242～243「国際的な交流と外国人の増加」など

今日的課題

- 地域(郷土)への愛着や持続可能な地域づくりに関して、どのように配慮されているか。
- 3分野を通じて、地域の歴史や現状、抱える課題などについて実地に調査し、理解を深める学習活動が重視されている。特に地理的分野では、地場産業や伝統産業と、それに携わる人々の暮らしの様子を取り上げ、自然環境や歴史的背景との関わり、継承への取り組みなどについて理解を深めるとともに、各地の地域おこしの事例を通して、地域社会が抱える課題を描き出している。さらに、過疎化・高齢化といった課題に対して、「六次産業化」や「持続可能な地域づくり」など、地域を活性化するための人々のより具体的な工夫や努力について考察を深めるように構成されている。
 - p.194～195「過疎対策と地域おこしの工夫や努力」、p.226～227「北陸地方の産業と水との関係」、p.250～253「地域に根ざした豊かな文化」「現代に生きる地域文化」、p.200～201「『住み続けられる』地域づくり」など

観点『中学社会 地理』の特色と具体例

- 社会への主体的な参画に関して、どのように配慮されているか。
- 3分野を通じて、地域社会での交流やボランティア活動に取り組む人々などの事例が積極的に取り上げられ、社会の形成者としての自覚と参画への意思が養われるように配慮されている。特に地理的分野では、本時の「地域調査の方法を学ぼう」「地域のあり方」を学習していく中で、聞き取りなどを行い、地域の課題の「見える化」を図り、その解決方法について地域の方々を招いて意見を提案する学習を通じて、地域社会への参画意識を高めるように留意されている。
 - p.134～135「調査活動の進め方」、p.141「仮説を検証し、地域を見つめ直す」、p.278～287「地域のあり方」など

- 伝統・文化に関して、どのように扱われているか。
- 3分野を通じて、地域の歴史的な歩みや人々の暮らしと密接に結びついた伝統・文化の多様性やその継承という観点から、多文化共生への理解と、郷土や日本への愛着を深める学習活動が重視されている。特に地理的分野では、日本の世界遺産・無形文化遺産・伝統的建造物などに関わる学習を通して、伝統と文化の意義や、継承していくことの大切さについて理解を深めるように留意されている。
 - p.130「日本にはどんな世界遺産があるのだろうか」、p.144「防災のまちづくり」、p.250～251「地域に根ざした豊かな文化」、p.276～277「アイヌ民族の文化に学ぶ」など

- 宗教に関して、どのように扱われているか。
- 3分野を通じて、教育基本法に示された「宗教に関する寛容な態度、一般的な教養」を重視する観点から、特に地理的分野では、世界にはさまざまな宗教があり、宗教と関わりの深い生活が営まれ、同じ地域でも宗教その他の社会的条件による生活の違いがあることに気づくことができるように配慮されている。仏教、キリスト教、イスラム教などの世界的に広がっている宗教のほか、さまざまな民族・宗教と社会との関わりなどについて取り上げている。分布図との関わりで、分布の境界は必ずしも明確に分けられないことにも触れながら、多様な価値観に対する理解と寛容を育み、多文化共生社会を創造する態度を養うことができるように配慮されている。
 - p.40～41「世界の民族と宗教」（資料5・世界の主な宗教の分布）、p.55（地理の窓）「タイに暮らす人々」、p.59（地理の窓）「サウジアラビアのイスラム教徒」など

- 防災教育に関して、どのように扱われているか。
- 3分野を通じて、自然災害と防災に関する現状と課題、今後のあり方についての理解と考察が深まるよう配慮されている。特に地理的分野に関しては、学習指導要領解説の改訂を受け、「防災対策にとどまらず、災害時の対応や復旧、復興を見据えた視点」から、減災の考え方や東日本大震災をはじめとする多発する自然災害についても触れながら、災害時における自助・共助・公助について具体的に理解が深まるよう、本文だけでなく的確な図版・写真を用いて取り上げている。さらに、「地域調査の方法を学ぼう」では、地域の防災について調べる学習を中心に扱い、防災学習について実感を持って具体的に深めることができるように配慮している。
 - p.140～141「地域の防災について調べる」、p.144「防災のまちづくり」、p.156～159「自然災害に向き合う」「災害から身を守るために」、p.260～261「震災の経験を未来に生かす」

- 少子化・高齢化をめぐる問題に関して、どのように扱われているか。
- 3分野を通じて、少子化・高齢化という現在の日本において深刻化している問題について理解が深まるように配慮されている。特に地理的分野に関しては、世界と日本の人口をめぐる現状について扱うと共に、世界的に見ても類のない速さで少子化・高齢化が進んでいる日本の状況について、具体的な事例や人口ピラミッドなどのグラフなどを用いて多角的な理解が深まるように取り上げている。
 - p.160～163「世界人口の増加と日本の少子高齢化」「過疎地域と過密地域」、p.192～193「過疎による地域の課題」、p.200～201「『住み続けられる』地域づくり」

- 地図教育に関して、どのように扱われているか。
- 小学校の社会科学学習の振り返りとしての、地図帳や地球儀の活用、略地図の描き方、大陸名や大洋名、47都道府県の名称などの学習については、冒頭の「地理にアプローチ」や第1編の中などに「地理の技」として位置づけ、楽しみながら学べるように工夫されている。さまざまな地図について、その読み解き方や有効な活用の仕方などに関して、丁寧な説明と共に学習活動が深まるように配慮されている。本時ページでは、随時本文と関連させながら、「THINK!」や「地理の技」などの各コーナー、また折込には、オリンピックの開催地や世界遺産など生徒の興味・関心と結びついた地図資料を配し、的確な理解が深まるように留意されている。
 - p.2～4「地理にアプローチ」、p.10～11「地球儀から世界地図へ」、p.50～51「中国の人々と農業」、p.127右「夏季・冬季オリンピックの開催国・都市の分布」、p.130右「日本の世界遺産の分布」、p.136～137「地図記号と縮尺」、p.139（地理の技）「地形図から断面図をつくらう」、p.146～147「地域区分をしてみよう」など

- 領土をめぐる課題に関して、どのように扱われているか。
- 3分野を通じて、我が国の領土をめぐる現況や問題が、学習指導要領に基づいて政府見解に立ち適切に記載され、学習内容に応じて的確に取り上げられている。北方領土と竹島の領土をめぐる問題や、尖閣諸島をめぐる情勢に関わる解説や資料が掲載され、国土の範囲が重要であることや、問題の平和的な解決が日本にとって重要な課題であることなどについて多面的に理解・考察することができるになっている。特に地理的分野では、日本の国土と領域に関する学習の中で、こうした領土をめぐる諸問題について、本文と写真・地図・年表でわかりやすく記載されている。
 - p.18～21「日本の領域はどこまで」、「日本の国境をめぐるさまざまな動き」

教育のICT化への対応

- 教育のICT化に対応した内容や教材が設けられているか。
- タブレット型端末などICT機器の多様な活用例を、学習内容に応じて写真やイラスト、動画などで紹介している。
- 教科書の紙面に印刷された二次元コードから、生徒自身が学習に活用できる動画、クイズ式教材、安全で公正な外部リンクサイトなど、多様なデジタル・コンテンツにアクセスできるようにしている。豊富な資料を、先生が適宜利用できるコンテンツサイトも設置している。
- 学習者用デジタル教科書と教材、教科書に準拠した指導者用デジタル教科書（教材）を発行し、動画などの各種コンテンツや機能を搭載している。
- 教科書に完全準拠した教師用指導書（セット）には、評価問題やワークシートなどの編集可能なデジタル・コンテンツを収録している。
 - p.134、140「地域調査の方法を学ぼう」、p.285「スライドにまとめる」など、p.5（第1編とびら）、p.13（地理の技）「統計資料を使ってみよう」、p.24（ワードチェック）

印刷・製本

- 印刷の仕上がりは、鮮明で見やすいか。
- 文字や図版など資料の印刷は鮮明で、色彩もビジュアル性が高い。特に、写真の発色がきれいで、統計資料も読み取りやすい。
- 本の造りは使いやすいか。また、環境への配慮はなされているか。
- 複数年の使用に耐えうる堅固な製本で、装丁にも汚れにくい加工が施されている。造本上も、各ページがより開きやすい綴じ方を採用したことから、紙面スペースも広くなり資料性が高まっている。表紙は、地理的分野の学習内容に関連した写真で構成され、明るく魅力的である。また、印刷には、再生紙と植物油インキが使用され、環境への負荷を軽減するように配慮されている。
 - 表紙、裏表紙

◆教育基本法との対応

【地理的分野】

教育基本法第2条	特に意を用いた点と特色	具体例
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	● 小学校社会科の学習を振り返るとともに、中学校社会科の学習の見通しを示すことを通して、中学校地理的分野の学習への安心感や関心、意欲が高まるように構成しました。	● 巻頭1～2 ● p.2～4
	● 地球儀や世界地図の読み取り方を学ぶことで、小学校での学習内容をさらに深め、整理できるようにしました。	● p.6～11
	● 世界地誌では、各州の導入場面で本時の学習の見通しを示すページを設け、該当する各州のイメージを膨らませるとともに、本時ページ冒頭では世界の各州の精緻な地勢図を掲載して地域を大観することができるようにしました。	● p.44～47、p.62～65、p.80～83、p.90～93、p.104～107、p.116～119
	● 日本地誌では、各地方の導入場面で本時の学習の見通しを示すページを設け、該当する各地方のイメージを膨らませるとともに、本時ページ冒頭では日本の各地方の精緻な地勢図を掲載して地域を大観することができるようにしました。	● p.172～175、p.186～189、p.202～205、p.216～219、p.232～235、p.246～249、p.262～265
	● 折り込み資料として、衛星画像をはじめ、オリンピックやジオパーク、世界遺産など教科書各所で効果的に活用できる地図を掲載しました。	● p.127右～130右
	● 世界全体における日本の位置や、都道府県庁所在地の成り立ちなどについて、小学校の学習内容を整理し、確認しながら学習が深まるようにしました。	● p.16～17、p.22～23
	● 日本の人口の特色に関して、世界の人口の特色と比較していく中で、人口分布図や人口構成などの資料を読み取る作業を行い、人口からみた日本の地域的特色を理解できるようにしました。	● p.160～163
	● 日本の各地方の現在の様子や、そこに生きる多様な人々の姿を、写真資料を豊富に用いて具体的にに取り上げ、人権・平和・環境・文化など多面的・多角的に理解と考察を深められるようにしました。	● p.171～277
	● 学習資料として、本時ページの語句について詳細な説明を加えた「用語解説」や、世界の各国別・日本の都道府県別の統計資料を二次元コードを介して作業動画とともに配備し、生徒が主体的に確認したり調べたりすることができるように工夫しました。	● p.288～293(用語解説) ● p.13(地理の技)
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	● 世界各地の自然的・社会的条件と労働との関わりを学習することを通して、働くことの意味や意義について考えられるようにしました。	● p.26～37
	● 地域調査を通して自分なりに考えてテーマを設定し、仮説を立て、意見を交換する学習活動が充実するように構成しました。	● p.132～144
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	● 各地の地域おこしや再開発の事例を通して、地域社会が抱える課題と、地域を活性化するための人々の工夫や努力について考察が深まるようにしました。	● p.194～195、p.200～201、p.252～253、p.256～257、p.266～267
	● 学習してきた各地域の特色と課題を捉えていく中で、自分たちの暮らす地域にある課題を見つめ直し、その解決に向けて主体的に社会形成に参画し、地域や社会を持続可能なものにしていくという意識を高められるようにしました。	● p.140～144、p.278～287
第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	● 温暖化や酸性雨などの地球的課題についてSDGsの目標と関連づけて多角的に取り上げ、諸課題の解決や持続可能な社会づくりには国際的な協力はもとより、自らの行動が不可欠であることについて考えられるようにしました。	● p.53、p.72～73、p.83、p.110～111
	● 自然環境(地形、気候など)や、災害・防災、開発と環境保全などに関する具体的な事例を豊富に取り上げ、それらと自分たちの暮らしとの関わりについて関心と考察を深められるように構成しました。	● p.134～135、p.140～144、p.148～159、p.172～183
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	● 国旗や国名には各国の伝統・文化や歴史が織り込まれており、その意義や継承についての理解が深まるようにしました。	● p.14～15
	● 世界の言語・民族・宗教と社会との関わりについて考えることを通して、多様な価値観や文化に対する理解と寛容な態度が育まれるようにしました。	● p.38～41
	● 我が国の領土の範囲や、領土問題、領土をめぐる課題について正しく理解できるようにするとともに、その平和的な解決に向けて意識を高められるようにしました。	● p.18～21
	● 資源・エネルギーをめぐる我が国の現状を理解できるようにするとともに、地球の有限性や、国際的な合意と協力が必要であることに気づけるように構成しました。	● p.164～165

◆地理的分野の重点項目とその系統

編	章	自然・環境・防災	人口・都市・開発	産業・資源・エネルギー
第1編 日本の地域構成 と世界と	第1章 世界の地域構成	六大陸と三大洋 (p.7) 地球儀と緯線・経線 (p.8) 地球の傾きで生じること (p.9)	人口が多い国と少ない国 (p.13)	
	第2章 日本の地域構成	日本の東西南北端の島々 (p.18)	47都道府県 (p.22～23)	
第2編 世界のさまざまな地域	第1章 世界の人々の生活と環境	世界の気候帯 (p.26～27) 熱帯の自然環境 (p.28～29) 乾燥帯の自然環境 (p.30～31) 温帯の自然環境 (p.32～33) 冷帯・寒帯の自然環境 (p.34～35) 高地の自然環境 (p.36～37)	遊牧や狩猟で生活する人々の定住化 (p.30、34)	熱帯地域の焼畑農業 (p.28) 乾燥地域における家畜の遊牧 (p.30) 太陽光発電を装備した移動式住居 (p.30) 高地における家畜の放牧 (p.36)
	第2章 世界の諸地域	アジアの自然環境 (p.46～47) 中国の環境問題 (p.53) ヨーロッパの自然環境 (p.64～65) ロシア連邦の自然環境 (p.74) アフリカの自然環境 (p.82～83) 北アメリカの自然環境 (p.92～93) 南アメリカの自然環境 (p.106～107) オセアニアの自然環境 (p.118～119)	ソウル市の人口集中 (p.49) 中国の人口問題と民族の多様性 (p.50～51) 西アジアの産油国の都市開発 (p.58～59) アメリカ合衆国の多民族社会の課題 (p.100～101) 南アメリカの多文化社会 (p.108～109) アマゾン川流域の開発と環境 (p.110～111) ブラジルの人口集中と都市問題 (p.113) ブラジルの日系移民の社会 (p.111、126～127) オセアニアの先住民 (p.120～121)	韓国の経済発展と日本との交流 (p.48～49) 中国の経済発展と都市生活 (p.52～53) 東南アジアの一次産品と工業化 (p.54～55) インドの農業・工業とICT産業 (p.56～57) 西アジアの原油と中央アジアのレアメタル (p.58～59) ヨーロッパの農業と工業 (p.68～71) ヨーロッパの環境対策とエネルギー (p.72～73) アフリカの農業の課題 (p.84～85) アフリカのモノカルチャー経済 (p.86～87) アメリカ合衆国の農業 (p.94～95) アメリカ合衆国の先端技術産業 (p.96～97) 南アメリカのモノカルチャー経済 (p.112) オーストラリアとニュージーランドの特色ある産業と進展 (p.120～121)
第3編 日本のさまざまな地域	第1章 地域調査の方法を学ぼう	地域にある自然災害伝承碑や石碑を調べる (p.134、140) 地域のハザードマップ (p.141) 災害図上訓練 (p.141)	市域の拡大と、人口構成の変化 (p.142) 都市化と災害被害の拡大 (p.140～141、143)	
	第2章 日本の特色と地域区分	日本の気候区分 (p.154～155) 季節予報を発表する時の気象庁の地域区分 (p.147) 世界の地震と火山の分布 (p.148～149) 日本の地形 (p.148～153) 日本の気候 (p.154～155) さまざまな自然災害 (p.156～157) 防災と自助・共助・公助 (p.158～159)	都道府県別の人口分布 (p.146) 世界と日本の人口の分布と変化 (p.160～163) 人口の過疎・過密と人口減少社会 (p.162～163)	都道府県別の工業生産額の分布 (p.146) 外国に依存する資源、日本の電力の課題 (p.164～165) 日本の産業地域 (p.166～167) 日本の工業地帯・工業地域と出荷額の割合 (p.167)
	第3章 日本の諸地域	九州地方の自然環境 (p.174～175) 九州地方の火山とシラス台地 (p.176～177) 沖縄県の観光開発と環境保全 (p.182～183) 中国・四国地方の自然環境 (p.188～189) 近畿地方の自然環境 (p.205) 琵琶湖の開発と環境保全 (p.212～213) 中部地方の自然環境 (p.218～219) 関東地方の自然環境 (p.234～235) 東北地方の自然環境 (p.248～249) 北海道地方の自然環境 (p.264～265)	中国・四国地方の人口 (p.188、192～193) 広島市の都市の発達 (p.190～191) 地域おこし (p.194～195) 持続可能な地域づくり (p.200～201) 京阪神大都市圏～三つの中心都市 (p.210～211) 名古屋大都市圏 (p.219) 浜松市の多文化共生の取り組み (p.127) 東京の首都機能 (p.236～237) 人々の移動と都市の拡大 (p.238～239) 増加する外国人 (p.243) 東北地方の農村の変化と工業化 (p.254～255) 東北地方の中心都市 仙台市 (p.255)	九州地方の施設園芸、畜産と循環型農業 (p.178～179) 北九州工業地域の発達と変化 (p.180～181) 水俣病と地域社会 (p.180) 阪神工業地帯の歴史と再開発 (p.208～211) 中京工業地帯と東海工業地域 (p.220～221) 東海地方の農業と水産業 (p.222～223) 中央高地の産業と観光 (p.224～225) 北陸地方の地場産業と稲作 (p.226～227) 京浜工業地帯と京葉工業地域、北関東工業地域の発達 (p.240) 大都市と結びついた近郊農業 (p.241) 東北地方の農業の多角化 (p.254～257) 北海道の大規模な農業 (p.268～269) 北海道の漁業 (p.270～271)
	第4章 地域のあり方	環境を大切にすまちづくり (p.284)	人口移動と地域格差による農村地域の衰退 (p.278～279) 人口増加に関わる都市の課題 (p.279)	環境に配慮した農業と地域づくり (p.283～284)
巻頭・巻末・折込		宇宙からとらえた日本列島 (p.128～129) 日本のジオパーク (p.130左)	オリンピックの開催国・都市 (p.127右)	世界の主な家畜・主な鉱産物 (巻末1) 世界の主な農産物 (巻末2～3)

交通・通信・貿易	生活・文化・国土	学習の方法・技能
パスポート (旅券) (p.15)	面積が大きな国と小さな国 (p.13) 世界の国旗・国境・国名 (p.14～15)	地球儀と世界地図の違い (p.10～11) 世界の略地図を描く (p.7、11)
北方領土での民間交流 (p.20)	日本の領域 (p.18～19) 領土をめぐる課題 (p.20～21)	地球上の日本の位置関係と時差 (p.16～17) 日本の略地図を描く (p.23)
馬から自動車への移動手段の変化 (p.30) 犬ぞりからスノーモービルへの移動手段の変化 (p.34)	マレーシアの暮らし (p.28) モンゴルの暮らし (p.30) ヨーロッパの暮らし (p.32～33) カナダなどの暮らし (p.34) アンデスの暮らし (p.36～37) 世界の民族と言語 (p.38～39) 世界の民族と宗教 (p.40～41)	雨温図の読み取り (p.27) 撮影地を地図帳で確かめる (p.29、31、33、35、37)
東南アジア諸国連合と日本の貿易 (p.55) 石油輸出国機構と産油国 (p.58～59) ヨーロッパ連合による地域統合 (p.66～67) ロシアとヨーロッパ連合の結びつき (p.74～75) アフリカのカカオ生産とフェアトレード (p.84) オセアニアとアジアの結びつき (p.122～123)	中国の料理の地域による違いと変化 (p.51) タイの工業化と格差拡大 (p.55) バングラデシュの社会問題 (p.57) サウジアラビアのイスラム教徒 (p.59) ヨーロッパのキリスト教文化 (p.65)、食文化 (p.69) EU統合の課題 (p.67) アフリカの歩みと課題 (p.78～79、83、85～87) アメリカ合衆国の都市生活と消費文化 (p.98～99) カナダの多文化主義 (p.101) アマゾン川流域の開発と先住民の生活 (p.110～111) サモアの人々の暮らし (p.119) 太平洋の島々と日本とのつながり (p.123) 国境を越えて移動する人々 (p.126～127)	世界の油田分布と原油輸出の読み取り (p.59) ヨーロッパ連合加盟国の経済格差の読み取り (p.67) アフリカ各国の輸出入の特色の読み取り (p.87) アメリカ合衆国の農業分布図の読み取り (p.95) 世界の森林面積の変化の読み取り (p.111) オセアニアの位置と国々の読み取り (p.118)
地域の交通網の発達 (p.139)	名古屋市有松地区の伝統的景観と「有松絞りまつり」 (p.144)	調査の見通しを立てる (p.132～133) テーマに応じた調査方法 (p.134～135) 地形図の活用 (地図記号と縮尺、等高線と地形図の新旧比較) (p.136～139) 調査結果をまとめる (p.142～143)
鉄道会社 (JR) の営業地域 (p.147) 国内の高速交通網の発達 (p.168～169)	雑煮に入れる餅の形の分布 (p.147)	地理情報システム (GIS) を利用して作成された地図 (p.168)
交通網の発達と地域の変化 (p.196～197) 京阪神大都市圏の発達と交通 (p.210～211) 名古屋大都市圏 (p.219) 東京大都市圏の発達と交通 (p.238～239) 関東地方と国際的な結びつき (p.233、242～243) 北海道の観光と地域振興 (p.272～273)	地域おこし協力隊 (p.193) 「住み続けられる」地域づくり (p.200) 畿内地域の歴史 (p.204) 京都市の景観保全 (p.206～207) 東北地方の食文化と伝統的工芸品 (p.250～251) 東北地方の祭りと伝統文化 (p.252～253) 東日本大震災から復興の取り組み (p.260～261) アイヌ民族と北海道の開拓 (p.264～265) 寒冷な気候に対応した暮らし (p.266～267) アイヌ民族の文化と民族共生象徴空間 (p.276～277)	九州地方の火山分布の読み取り (p.177) 中国・四国地方の人口変化の読み取り (p.193) 京都市、大阪市、神戸市への通勤・通学者の分布の読み取り (p.211) 日本の漁獲量変化と主な漁港の分布の読み取り (p.223) 東京の昼夜間人口の変化の読み取り (p.237) 東北地方の地形の特色の読み取り (p.249) 北海道の農業規模と農作物の読み取り (p.268～269)
	水俣市の環境改善の取り組み (p.283～284)	地域の課題をとらえる (p.278～279) 地域の課題の調査 (p.280～283) 課題の整理・結果の共有と提案 (p.284～286)
	日本の世界遺産 (p.130右)	地理の学習を始めるにあたって (巻頭1～2) 地図のきまり (p.2) 地図帳の使い方、地図上の位置の表し方 (p.3) 人口ピラミッド (p.4)

◆単元構成と時間配当 [地理的分野 総配当時数 115]

✓教科書内容の拡充ポイント

- 巻頭（表見返し）の「地理の学習を始めるにあたって」と第1編の学習を通じ、小学校社会科とのスムーズな接続が図れるようにしました。
 ➡より具体的に中学校地理的分野の学習を紹介する場面に続き、三分野に分かれて進む中学校社会科の学習について、簡単に学習内容を示しました。続く「地理にアプローチ」では、地図のきまりや地図帳の使い方などについて小学校社会を振り返る学習をしたのち、第1編へ進んでいくようにしています。
- 世界地誌（第2編・第2章）、日本地誌（第3編・第3章）などの導入として、これから始まる本時の学習を見通すページを設けました。
 ➡これから始まる学習を想起させると同時に、生徒の興味・関心を高めるような、ビジュアル的に優れた写真や他地域との比較を意識したグラフ・資料などを集めたページです。

教科書の単元配列	配当時数	学習指導要領の内容	該当箇所	指導時期	
				学年	月
地理の学習を始めるにあたって			巻頭1～2	1	4
〔地理にアプローチ〕地図やグラフを使いこなそう			p.2～4	1	4
第1編 世界と日本の地域構成	[9]	A	p.5～24		
第1章 世界の地域構成	5	A (1) ①	p.6～15	1	4-5
第2章 日本の地域構成	4	A (1) ②	p.16～24		
第2編 世界のさまざまな地域	[36]	B	p.25～127		
第1章 世界の人々の生活と環境	[8]	B (1)	p.26～42	1	9
第2章 世界の諸地域	[28]	B (2)	p.43～127		
1 アジア州	7	B (2) ①	p.44～61	1	9-10
2 ヨーロッパ州	6	B (2) ②	p.62～77	1	10
■特設Ⅰ.ヨーロッパがアフリカに残したものは	—	—	p.78～79		
3 アフリカ州	3	B (2) ③	p.80～89	1	10
4 北アメリカ州	5	B (2) ④	p.90～103	1	1
5 南アメリカ州	4	B (2) ⑤	p.104～115	1	1
6 オセアニア州	3	B (2) ⑥	p.116～125	1	2
■特設Ⅱ.国境を越えて移動する人々	—	—	p.126～127		
第3編 日本のさまざまな地域	[58]	C	p.131～287		
第1章 地域調査の方法を学ぼう	[6]	C (1)	p.132～144	2	6
第2章 日本の特色と地域区分	[12]	C (2)	p.145～170	2	6-7
第3章 日本の諸地域	[35]	C (3)	p.171～277		
1 九州地方	5	C (3) ①	p.172～185	2	9
2 中国・四国地方	5	C (3) ②	p.186～199	2	9
■特設Ⅲ.「住み続けられる」地域づくり	—	—	p.200～201		
3 近畿地方	5	C (3) ⑤	p.202～215	2	10
4 中部地方	5	C (3) ③	p.216～229	2	1
■特設Ⅳ.モノから見えてくる地域	—	—	p.230～231		
5 関東地方	5	C (3) ④	p.232～245	2	1-2
6 東北地方	5	C (3) ⑤	p.246～259	2	2
■特設Ⅴ.震災の経験を未来に生かす	—	—	p.260～261		
7 北海道地方	5	C (3) ①	p.262～275	2	2
■特設Ⅵ.アイヌ民族の文化に学ぶ	—	—	p.276～277		
第4章 地域のあり方	[5]	C (4)	p.278～287	2	2-3
用語解説			p.288～293		
さくいん			p.294～297		
	計103 (予備12)				